

授業シラバス

コース名 ジュエリープロダクトコース

科目名	メイキング基礎実習 I		授業のねらい ジュエリー制作に必要な基本的な工具・素材の扱い方を含めた彫金技術をアイテム毎に習得していく。	
担当教員	伊藤、北山			
対象学年	1年			
単位区分	必修			
授業時数	296時間	単位数	8単位	到達目標
開講期間	2025.4.1～2026.3			
授業形態	実習			新たな加工法と知識を学び、それに基づいて着実に作品を仕上げることを目標とする。
備考	実務経験有 = 伊藤(ジュエリー作家) 北山(ジュエリーデザイナー)			
授業の計画展開	メイキング基礎実習 I-1(平打ち&甲丸リング制作)			
	内容	平打ちリングと甲丸リングの制作を通し、リングの基本的な制作プロセスと地金加工工具の取扱い方法を学ぶ		
	メイキング基礎実習 I-2(WAX月甲丸リング制作)			
	内容	ワックス素材を使用したリングの基本的な制作プロセスとWAX加工工具の取り扱い方法を学ぶ		
	メイキング基礎実習 I-3(ソリテールリング)			
	内容	カボションカット石を使用した覆輪(フクリン)石座のソリテールリング制作		
	メイキング基礎実習 I-4(ソリテールペンダント)			
授業の計画展開	内容 ラウンドCZを使用し4本爪留め石座のペンダントトップを制作			
	メイキング基礎実習 I-5(ブローチ金具)			
	内容 ラウンドCZを使用し4本爪留め石座のペンダントトップを制作			
授業の計画展開	メイキング基礎実習 I-6(ロケットペンダント)			
	内容 ヒンジ、ボックスの制作方法を用いてロケットペンダントを制作			
履修上の注意事項	基本的な工具の使用方法、用途を理解し、それぞれの課題毎に習得する基礎技法を身に付けたうえで進めていくことが重要である			
評価方法	1.課題作品:技術力・造形力・独創性 2.制作意欲:探究心・日頃の制作姿勢、出席状況による総合評価 *『授業の計画展開』にある課題毎に成績評価します。			
テキスト	ヒコ・みづのジュエリーカレッジ オリジナルテキスト			
参考文献	ジュエリー・バイブル、世界のジュエリーアーティスト			

授業シラバス

コース名 ジュエリープロダクトコース

科目名	メーキング造形実習 I		授業のねらい ジュエリー制作に必要な基本的な工具・素材の扱い方を含めた彫金技術をアイテム毎に習得していく。また、各自でデザインをしながら、技法を使った制作を進める。金属以外の素材を使用した課題では、ターゲットに向けたジュエリー制作の為のリサーチ方法を習得していく。	
担当教員	伊藤、北山			
対象学年	1年			
単位区分	必修			
授業時数	472時間	単位数	15単位	到達目標 新たな加工法と知識を学び、各自の制作テーマを考え制作計画を立て、それに基づいて着実に作品を仕上げることを目標とする。
開講期間	2025.4.1～2026.3			
授業形態	実習			
備考	実務経験有 = 伊藤(ジュエリー作家) 北山(ジュエリーデザイナー)			
授業の計画展開	メーキング造形実習 I-1(WAX造形)			
	内容	WAX素材を使用し、立体造形の制作手順と表現方法を演習する		
	メーキング造形実習 I-2(ペンダント制作)			
	内容	透かした銀板を重ね合わせたオーバーレイ技法を用いたペンダント制作		
	メーキング造形実習 I-3(material jewelry)			
	内容	べっ甲を使用した商品を企画制作する(企業協賛課題)		
メーキング造形実習 I-4(ミル留め)				
内容	ミル留め技法を使用したジュエリーを制作			
メーキング造形実習 I-5(ジュエリーコンペティション)				
内容	一年間で学んだ技術や技法を使ったオリジナルデザインリング制作			
履修上の注意事項	指定の金属加工法を習得した上で、各自のテーマに基づいた作品制作を行うことが重要である			
評価方法	1.課題作品:技術力・造形力・独創性 2.制作意欲:探究心・日頃の制作姿勢、出席状況による総合評価 *『授業の計画展開』にある課題毎に成績評価します。			
テキスト	ヒコ・みづのジュエリーカレッジ オリジナルテキスト			
参考文献	ジュエリー・パイブル、世界のジュエリーアーティスト			

授業シラバス

コース名 ジュエリープロダクトコース

科目名	デザイン実習 I			授業のねらい ジュエリーデザインに必要な基本的なレンダリング、製図読解を習得していく。
担当教員	北山、船越			
対象学年	1年			
単位区分	必修			
授業時数	208時間	単位数	7単位	到達目標 ジュエリーデザインに必要な基本的な知識、方法を学び、確実に仕上げることを目標とする。
開講期間	2025.4.1～2026.3			
授業形態	実習			
備考	実務経験有＝船越(ジュエリーデザイナー) 北山(ジュエリーデザイナー)			
授業の計画展開	デザイン実習 I -1(カウンタースケッチ) 内容 iPadによるジュエリーデザイン(グラフィックソフト演習) 色彩学 デザイン実習 I -2(製図の基礎1) 内容 dr1スケッチ/dr2立方体/dr3円柱 dr4立体図から図面/dr5図面読解/dr6質感表現1/dr7平打ちリング作図 dr8甲丸リング作図 デザイン実習 I -3(製図の基礎2) 内容 dr09リング製図 dr10リングの構造/dr11石付きリングの構造の理解 dr12 1個石リングの表現 デザイン実習 I -3(製図の基礎2) 内容 立体デザイン/観察スケッチ iPadの活用 デザイン実習 I -4(製図の基礎3) 内容 dr13 取り巻きリング デザイン実習 I -5(デザインの展開) 内容 マテリアルリサーチ デザイン実習 I -6(Shaper3D) 内容 shapr3Dの演習と操作の理解			
履修上の注意事項	基礎的な描画技法の習得と適切な道具の使用が出来ていることが重要であり 市場動向や指定のテーマに対する多くの展開から最適なデザインを選択し、完成させることが重要である			
評価方法	課題提出の内容、日頃の姿勢、出席による総合評価 *授業の計画展開にある課題毎に成績評価します。			
テキスト	ヒコ・みづのジュエリーカレッジ オリジナルテキスト			
参考文献	「ジュエリーバイブル」			

授業シラバス

コース名 ジュエリープロダクトコース

科目名	宝石学 I		授業のねらい 宝石に関する全般的な基礎知識(流通用語、耐久性と物理的特性、輝きと光学的特性、処理や合成など)を幅広く習得していく。	
担当教員	森			
対象学年	1年			
単位区分	必修			
授業時数	30時間	単位数	1単位	到達目標 広く知られた宝石の名称とその特徴を知識として確実に覚えることを目標とする。
開講期間	2025.4.1～2026.3			
授業形態	講義			
備考	実務経験有=森(宝石鑑定士)			
授業の計画展開	宝石学 I -1(カラーストーン)			
	内容 宝石学における、カラー石の基礎知識の習得			
履修上の注意事項	カラー石の基礎知識に関するペーパーテストを実施。70%以上の正解率であることが重要である。			
評価方法	ペーパーテストの得点			
テキスト	ヒコ・みづのジュエリーカレッジ オリジナルテキスト			
参考文献	「ジュエリーバイブル」			

授業シラバス

コース名 ジュエリープロダクトコース

科目名	メーキング基礎実習Ⅱ			授業のねらい 1年次で学んだ宝飾技法に基づき、ジュエリー業界における商品量産の知識、加工方法の習得していく。
担当教員	伊藤、矢野尾			
対象学年	2年			
必修選択の別	必修			到達目標 新たな加工法と知識の習得に基づき、着実に作品を仕上げることを目標とする。
授業時数	288時間	単位数	9単位	
開講期間	2025.4.1～2026.3			
授業形態	実習			
備考	実務経験有 = 伊藤(ジュエリー作家) 矢野尾(ジュエリー制作デザイン)			
授業の計画展開	メーキング基礎実習Ⅱ-1(打ち延ベリング)			
	内容	腕製作(V字、抱き合わせ、割り腕)		
	メーキング基礎実習Ⅱ-2(擦り出し石座ペンダント)			
	内容	擦り出し石座の制作と構造を学ぶ		
	メーキング基礎実習Ⅱ-3(宝飾ベーシック)			
	内容	ペンダントの腰制作、打ち出し技法の習得		
	メーキング基礎実習Ⅱ-4(量産仕上げ)			
	内容	量産品の仕上げ方法の習得		
履修上の注意事項	メーキング基礎実習Ⅱ-5(金具制作)			
	内容	プレスレット金具の製作方法を学ぶ		
	メーキング基礎実習Ⅱ-6(Ptペンダント)			
	内容	プラチナ素材を使用したペンダント製作		
	メーキング基礎実習Ⅱ-7(K18カクテルペンダント)			
	内容	K18素材を使用したペンダント製作		
履修上の注意事項	指定された種類、サイズの石を規定の留め方で石留め出来る事が重要である。			
評価方法	1.課題作品:技術力 2.制作意欲:日頃の制作姿勢、出席状況による総合評価 *『授業の計画展開』にある課題毎に成績評価します。			
テキスト	ヒコ・みづのジュエリーカレッジ オリジナルテキスト			
参考文献	「ジュエリーバイブル」			

授業シラバス

コース名 ジュエリープロダクトコース

科目名	メーキング造形実習Ⅱ		授業のねらい 1年次で学んだ基礎技法に基づき、ジュエリーの各アイテムにおける金具の扱い方、装着感、重量バランスを習得していく。指定のテーマに基づき各自が作品コンセプトを設定し、宝飾技法を応用した作品制作を習得していく。	
担当教員	伊藤、矢野尾			
対象学年	2年			
必修選択の別	必修			
授業時数	480時間	単位数	14単位	到達目標
開講期間	2025.4.1～2026.3			
授業形態	実習			新たな加工法と知識を学び、各自がテーマを探り制作計画を立て、着実に作品を完成させることを目標とする。
備考	実務経験有 = 伊藤(ジュエリー作家) 矢野尾(ジュエリー制作デザイン)			
授業の計画展開	メーキング造形実習Ⅱ-1(ストーンセッティングリング)			
	内容	擦り出し技法を応用しデザインリングを制作		
	メーキング造形実習Ⅱ-2(量産制作)			
	内容	WAX原型制作、ゴム型、キャスト、仕上げ、及び展開プレスレット制作		
授業の計画展開	メーキング造形実習Ⅱ-3(セットジュエリー)			
	内容	リング、ピアス、ペンダント3点で構成されたジュエリー制作		
履修上の注意事項	指定の金属加工法を習得した上で、各自のテーマに基づいた作品制作を行うことが重要である。			
評価方法	1.課題作品:技術力・造形力・独創性 2.制作意欲:探究心・日頃の制作姿勢、出席状況による総合評価 *『授業の計画展開』にある課題毎に成績評価します。			
テキスト	ヒコ・みづのジュエリーカレッジ オリジナルテキスト			
参考文献	「ジュエリーバイブル」			

授業シラバス

コース名 ジュエリープロダクトコース

科目名	デザイン実習Ⅱ			授業のねらい 1年次に学んだ基礎技法に基づき、新たな描写技術を習得し、自身のジュエリーデザインに応用していく。 また、市場動向や指定テーマに基づき、表現を模索し、展開を重ねジュエリーデザインまで繋げる技術を習得していく。 さまざまな講義から自身の今後の可能性を探る。
担当教員	北山、鷺本			
対象学年	2年			
必修選択の別	必修			
授業時数	176時間	単位数	6単位	到達目標 モチーフの捉え方、表現方法を学び、指定条件から導き出したコンセプトに基づき、宝飾技法を踏まえた実現性のあるジュエリーデザインを完成することを目標とする。また、モノづくりに関連した講義により自分が取り巻く身近な事と歴史や社会問題を結びつけて考察することを目標とします。
開講期間	2025.4.1～2026.3			
授業形態	実習			
備考	実務経験有 = 鷺本(マナー講師) 北山(ジュエリーデザイナー)			
授業の計画展開	デザイン造形実習Ⅱ-1(プレゼンテーション) 内容 取り巻きリング、サイドメリング マリッジリング、エンゲージリング プレゼンテーション基礎			
	デザイン造形実習Ⅱ-2(リサーチ) 内容 セットジュエリーデザイン ジュエリーブランド研究 ショッピングリサーチレポート			
	デザイン造形実習Ⅱ-3(企業連携特別課題) 内容 市場動向にあわせたオリジナルブランド考案			
	デザイン造形実習Ⅱ-4(プランニング) 内容 トрендや社会情勢をリサーチした中からの新商品企画提案			
履修上の注意事項	市場動向や指定のテーマに対する多くの展開から最適な提案とデザインを選択し、完成出来ることが重要である。			
評価方法	1.課題作品:描写力・展開力 2.制作意欲:制作意欲:探究心・受講態度、出席状況による総合評価			
テキスト	ヒコ・みづのジュエリーカレッジ オリジナルテキスト			
参考文献	「ジュエリーバイブル」			

授業シラバス

コース名 ジュエリープロダクトコース

科目名	宝石学Ⅱ		授業のねらい 宝石に関する全般的な基礎知識(流通用語、耐久性と物理的特性、輝きと光学的特性、処理や合成など)を幅広く習得していく。	
担当教員	森、加藤			
対象学年	2年			
単位区分	必修			
授業時数	46時間	単位数	2単位	到達目標 広く知られた宝石の名称とその特徴を知識として確実に覚えることを目標とする。
開講期間	2025.4.1～2026.3			
授業形態	講義			
備考	実務経験有＝森、加藤(宝石鑑定士)			
授業の計画展開	宝石学Ⅱ-1(ダイヤモンド)			
	内容	宝石学における、ダイヤモンドの基礎知識の習得		
	宝石学Ⅱ-2(カラーストーン)			
	内容	宝石学における、カラーストーンの基礎知識の習得		
履修上の注意事項	カラーストーンの基礎知識に関するペーパーテストを実施。70%以上の正解率であることが重要である。			
評価方法	ペーパーテストの得点			
テキスト	ヒコ・みづのジュエリーカレッジ オリジナルテキスト			
参考文献	「ジュエリーバイブル」			